

NEWSLETTER

先生とC・Z科図書委員がおすすめの本や作家を紹介します。
このNEWSLETTERが素敵な本や作家に出会えるきっかけになれば幸いです。

『ロリㇿタ。』 嶽本野ばら

(C3 狩守 響子)

ロリータファッションを愛する「僕」と、美少女モデルの「君」は恋に落ちる。しかし、そこにはある問題があり、世間から糾弾されてしまう…。理解されない苦しさそれでも人間が言葉を紡ぎ続ける意味を描いた純愛小説。

また、この物語にはANGELBLUE、mezzo piano、pom ponette…平成生まれの私達にとって懐かしいジュニアブランドが登場します。

ヒロインの「君」が大好きなANGELBLUEが復活を遂げた今、この本を是非手に取ってみたいはいかがでしょうか。



『心霊探偵八雲』 神永学

(Z2 小森 真奈)

本作は、赤い左眼を介して、死者の魂が見える青年・斉藤八雲が、同じ大学に通う晴香と共に心霊事件の謎に迫る、ミステリー小説だ。

女子大生監禁殺人事件や交通事故が多発するトンネル…etc.八雲は、その特異な能力で、声なき被害者の霊と向き合い、事件の真相を細解していく。

推理やホラー、コメディ等の多くの要素がつまっており、切なくも温かいストーリーが魅力的である。また、“八雲と晴香の関係の行方”や“少し変わった登場人物らの軽快なやり取り”にも目が離せない。是非ご覧あれ。



『そして、バトンは渡された』 瀬尾まいこ

(C5 上 裕樹)

2019年本屋大賞受賞作品。母親が2人、父親が3人という複雑な家庭環境で育った優子が伴侶を見つけ結婚するまでの物語。複雑な家庭環境だと、つい可哀想とか辛いとか、本人が明るくしていても我慢して明るく振舞っているのではと勝手に決めつけてしまう自分を反省した。優子の担任の向井先生のようにきちんと本人を見て判断し言葉をかけられるひとになりたい、難しいけど。「優子ちゃんと暮らし始めて、明日はちゃんと二つになったよ。自分のと、自分のよりずっと大事な明日が、毎日やってくる」読みながら笑ったり感動したりした。森宮さんと優子の掛け合いがほんとと面白かった。ぜひ皆さんにも読んでいただきたい。



《先生からのおすすめ》

『漂流』 吉村昭

(マテリアル・バイオ工学コース 助教 金子 賢介)

はじめまして、令和3年6月1日付でマテリアル・バイオ工学コースに着任した金子と申します。私は読書が趣味で、主に小説を好んで読みます。好きな作家の小説だったり、本屋やネット通販で気になった題材の小説を読んだりです。ジャンルも問いません。ただ、人に紹介するとなると、なかなか難しいですね。今回は、吉村昭著で、新潮文庫より1980年から出版されている小説、『漂流』を紹介したいと思います。

ご存知の方も多いと思いますが、吉村昭氏は著名な作家です。1927年(昭和2年)に生まれ、2006年(平成18年)に亡くなっています。「ふぉん・しいはるとの娘」や「間宮林蔵」など、史実にある人物や事件を取材することで、数多くの歴史長編小説を執筆している作家です。これまでに様々な文学賞を受賞するとともに、多くの作品が映画化やドラマ化されています。今回紹介する『漂流』も、史実をもとにした歴史小説で、1981年に映画化されているようです。

さて、今回紹介する『漂流』ですが、江戸時代、海洋事故によって伊豆諸島の無人島(鳥島)に漂着し、12年に及ぶ無人島生活の末に故郷に帰還した、長平という人が主軸の歴史小説です。長平は土佐の船乗りでしたが、航海中に高知沖で嵐に遭遇し、乗組員数名とともに伊豆諸島の無人島(鳥島)に漂着しました。長平は、漂着した仲間が次々に死んでいくなか、水源のない鳥島で、アホウドリや海藻を主食に、雨水を貯めた生活法を確立することにより無人島生活に適応しました。その後次々に日本人漂流者が漂着し、その多くが無人島生活に適応できず死んでいくなかで、生き残った漂流者とともに数年かけて破材や流木から簡易な船を造り、無人島から脱出しました。運よく青ヶ島にたどり着くことができた長平らは、江戸を経てそれぞれの故郷に帰っていきました。その後長平は野村姓を与えられ、野村長平として無人島経験の語り部となり、妻子にも恵まれ、60年の生涯を全うしました。墓標には彼の呼び名「無人島長平」が刻まれ、高知には現在も記念碑があるとのことでした。

無人島で生きていくことを可能にした長平の観察眼や機転の良さ、行動力は凄く、極限状態での生活描写も緻密であり、一気読みしてしまいました。ちなみに、鳥島は、ジョン万次郎が漂着した島でもあります。彼は、漂流から数か月後にアメリカの捕鯨船に救助されています。彼は、アメリカでの生活を経て帰国し、近代化する日本において日米の懸け橋として活躍されました。こちらについても様々な歴史小説が出版されています。歴史上様々な舞台となった鳥島、そこで12年もの無人島生活を送り帰還した長平の物語、興味をもった方はぜひ一読ください。



『海』 小川洋子

(Z4 樋口 志保)

恋人の家を訪ねた青年が、海からの風が吹いて初めて鳴る<鳴鱗琴(メイキリン)>について、一晚彼女の弟と語り合う表題作、言葉を失った少女と孤独なドアマンの交流を綴る「ひよこトラック」、思い出に題名をつけるという老人と観光ガイドの少年の話「ガイド」など、静謐で妖しくちょっと奇妙な七編を収録した短編集です。

小川洋子さんが作り上げる世界観に一度はまってしまえば、誰も抜け出せなくなると思います。ぜひ、この世界観にはまってみてください。



『総理にされた男』 中山七里

(C4 類家 忠大)

皆さんは日本の政治に興味関心があるだろうか。私はこの本を読むまで頻繁に行われる消費税増税の理由や集団的自衛権の意味もわからなかった。おそらくこれを読んでいる人の多くは私と同じぐらいの知識量だろう。しかし、この本を読んでしまったら過去の自分の程度の低さに驚くはずだ。それほどまでにこの本は政治素人にやさしい今の政治の解説本のようなものだ。もしあなたが突然総理になったら。この本はそんなシミュレーション小説である。



『バケモノの子』 細田守

(Z3 沼上 和樹)

この本は、人間の世界とは別に存在するもう一つの世界「バケモノの世界」に迷い込んでしまったひとりぼっちの少年が、ひょんなことからバケモノ・熊徹の弟子となり、奇妙な師弟関係の2人はことあるごとにぶつかり合うが、修行と冒険の日々を重ねるうち、次第に絆が芽生え、ともに成長し、まるで本当の親子のようになっていくという話です。

親子関係について考えさせられ、心が温まる作品です。ぜひご覧ください。



『青くて痛くて脆い』 住野よる

(C2 北上 快)

人に不用意に近づきすぎないことを信条にしていた大学一年の春、主人公の楓は秋好寿に出会った。空気の読めない発言を連発し、周囲から浮いていたが、誰よりも純粋だった彼女。秋好の理想と情熱に感化され、楓と秋好は二人で「モアイ」という秘密結社を結成した。それから3年。楓の心には、秋好がついた「嘘」が棘のように深く刺さっていた。

「僕が、秋好が残した嘘を、本当に変える」

彼女のついた嘘を正すため、そして自分がやり残したことにケリをつけるために居なくなった友達へ挑戦する――といった物語です。2020年に映画化されているので名前を聞いたことがある人も多いのではないのでしょうか？ぜひ読んでみてください。



『シューマンの指』 奥泉光

(Z5 磯島 亜花莉)

「私」は確かに見たのだ。「彼」が夜の音楽室で「幻想曲」を弾くのを、切断された指が暖炉に投げ込まれたのを…

天才ピアニスト永嶺修人は人前で演奏することを極端に嫌がった。音楽はもうすでにあるのだ、と。そんな彼の奇跡の演奏中、女子生徒が殺害される事件が起こるが犯人は見つからないまま時効を迎える。

その後、友人からの手紙で、指を失ったはずの修人がピアノを弾いたことを知った「私」は1つの疑惑を抱くが…音楽に取りつかれた彼らが奏でる、複雑で狂気的な音楽にあなたも触れてみませんか？



『名前のない怪物 蜘蛛と少女と猟奇殺人』 黒木京也

(L4 佐々木 美月)

ある日、突如主人公である僕のもとに現れた正体不明の怪物。美しい少女の姿をしながらも、意思疎通のできない「それ」は、少しずつ僕の生活を侵食していき、心をも奪っていく。また、それと同時に、連続猟奇殺人事件が社会を騒がせていた。果たして、美しいながらも不気味な「それ」は何か関係があるのか。「それ」はいったい何者なのか。僕と美しい少女の姿をした怪物との交友を描いた物語。最後の驚きの展開に目が離せない。



『鹿の王』 上橋菜穂子

(L3 豊坂 颯斗)

この物語は、鹿を操り故郷を守るために戦った独角という団の頭だったヴァンと、帝国の医術師・ホツサルを中心に過酷な運命に立ち向かう人々のストーリーだ。舞台は、ヴァンが戦いに敗れ岩塩鉱で動かされていたころ。ある晩、謎の獣が岩塩鉱を襲撃。それにより謎の病気が流行。動かされていた人々は皆亡くなり生き残ったのはヴァンと、もう一人の少女・ユナのみ。そこへ病気のことを知り岩塩鉱を訪れたホツサル。ここから更に物語が展開していく。

この物語は、上・下巻に分かれておりファンタジー、医療の要素が含まれている。一つ一つの行動や、会話から目が離せない。皆さんも是非手に取って読んでみてください。

